



特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会
会報 第119号 2024年1月5日発行

本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

煙たなびく冬景色に、ほっこりしますね



かまどでご飯を炊き、残燗ごんざんの燃えかすでさつまいもを焼き、春の苗床に撒く籾殻を燻炭する。煙の匂いに惹かれて訪れる人々に、昔の暮らしを伝える季節になりました。

土壌改善

お知らせ

どんど焼き 1/14(日)
(雨天時 15(月)に順延)

場所：野外生活体験広場

山崎の伝統行事を引き継いでいます。(公財)鎌倉市公園協会



と協働で開催します。

新・資材置き場完成

会員は時に大工職人に早変わり。立派な資材置き場が完成しました。各班の知恵と工夫が集結された収納庫となりました。



谷戸の和紙作り

1/28. 2/28. 3/31

トントントンという音が谷戸に響きます。紙を漉く前にヒメコウゾをたたく音色です。この冬も和紙作りします。

(公財)イオン環境財団助成決定

新年度も、より活動が円滑に進みますように。

12月になっても日中は暑さを感じる日がありました。朝はかなり寒いので、昼夜の温度差を感じます。全国的に荒れた天気が続いていますが、鎌倉でも強い風が吹き荒れるなど極端な気象が続いています。

●谷戸の自然の様子

谷戸では、薄氷がはったり軽い霜が降りているようですが、例年よりも寒さの訪れが遅いようです。12月になっても赤トンボ（アキアカネ）が飛んでいました。紅葉は、夏の暑さで木が弱っているためか、発色が悪いように感じます。毎年、谷戸に越冬に来る冬鳥が、今年は特に少ないようです。カシ



ラダカ、ルリビタキ、シメなどが冬の小鳥が見られないのはさびしいです。その一方で、カワウという柏尾川にいる大型の鳥が池に現れました。エサ不足で移動してくるのかもしれませんが。



前回お知らせしたセグロセキレイという鳥が毎日のように見られています。ツミという小型のタカ（ハトより少し小さいくらい）が居ついており、水路で水浴びをしたり、ヒヨドリを襲っているのを観察しました。人が知らないうちに自然のドラマが繰り広げられているようです。

●セリとノウサギ

春の七草で知られるセリは、野鳥や動物にとって冬の大切な食料です。湿地ではセリやハコベの葉先を食べた跡が見つかります。谷戸が公園になって間もないころは、ノウサギがたくさんいてフンや足跡が多く、時々姿も見られましたが、最近では少なくなりました。先日の観察では、獣道（獣が通る道）のま



わりで、ササの葉をハサミで切断したような食痕（かじった跡）が所々にありましたので、まだ棲息していることは確かです。谷戸の奥や、隣の台峰緑地では食痕が多く見つかるので、人があまり来ない場所にセリを増やすことが保護につながると感じます。従来、セリが減っているのは湿地が乾燥化するためと言われてきましたが、それよりも湿地に枯草が積もって日照をさま



たげ、セリが育ちにくくなっているのが原因と思われます。休耕田になって年数がたつと、湿地を保護（放任？）するだけではだめで、湿地の手入れが必要になるようです。湿地の枯草を刈り集め、日当たりをよくすることがセリの生長につながり、ノウサギなどを守ることになるでしょう。冬こそ、湿地の作業を頑張りたいと思っています。

各班のお知らせ


田んぼ班

多い年の6割ほどの収量なれど、実りの嬉しさは変わらず。春からの田んぼ作業をねぎらいつつ皆で炊く新米は格別なご馳走。次の春までは、初殻くん炭と畔を直すためのむしろ編みで、ゆるやかな時間が流れる。

畑班

秋の少雨の影響を最も受けたのが大根。谷戸まっりの谷戸鍋の主役である青首大根は型も小さめで、かつ水分不足から火が通るのに時間を要した。練馬たくわん大根も干す前からすでにたくわんサイズ😞



 間伐予定の木の選定

自然遊び班

山あるきがたのしかった。たのくろまめをぶんべつするのがたのしかったけどつかれた。(2年) やぶごぎをした。葉や竹がいっぱいあってたいへんだったけど楽しかった。(3年) いもがほくほくでおいしかった。(6年)


生態系保全班

オギ原のカナムグラを取るときにカヤネズミの巣を発見しました。探しても、探しても見つからなかったので嬉しかったです。メンバーから歓喜の声があがりました。オギ原の手入れに力が湧きます。

農芸班

2週間ほど天日干しされた練馬大根を、谷戸米の糠でたくわん漬けしました。たのくろ豆の収穫量が少なかったため、2月のみそ作りは「麦わら細工」に変更します。何を作るかお楽しみに！



 12/4 たくわん大根洗い


雑木林管理班

昨年12月に雑木林を調査し、今シーズン間伐予定の木を選定しました。選定対象は主に枯木や危険木です。安全を最優先とし、毎週、間伐、枝打ち等を行います。春先には薪も作る計画です。

植物育成班

春に花が咲くように、冬の間土手の草刈りをします。下に隠れてしまう野草に光が届きやすくするためです。毎年同じことの繰り返しですが、それでも変化を感じることができるのは楽しい活動です。



 12/13 オギ原の手入れ

谷戸の生きもの

ナミテントウ どうする並天道

ナナホシテントウと並んで谷戸ではポピュラーだが、星（紋）の数がゼロ、2個、4個～19個までと定まっていないのが災いしてか人々の認知度は低い。歌やアニメになるのもナナホシテントウばかり。どちらも成虫で越冬するので新年をどこかで迎えているはずだ。集団で越冬すると言われているが、昨年(2023)12月の晴天無風の日に農家風休憩舎近くで数十匹（それ以上？）が群飛するのを居合わせた多くの人と共に目撃した。越冬前の“儀式”だと考えられるが、ナナホシは混じっておらず、すべてナミテントウ。外見がこれだけ違って同一種という例が他にもあるかと思ったら大谷翔平と・・・た🥰🥰🥰ま🥰🥰 (たのくろまめお)



2紋型（越冬個体）



多紋型（19個）



斑紋型

フユシャクガの仲間 どうするまめお

漢字では“冬尺蛾”と書き、冬に成虫となる蛾。幼虫はいわゆる尺取虫（シャクトリムシ）。冬の夜メスがフェロモンでオスを呼ぶ（コーリング）ことによって繁殖する。口がないので何も食べない。そのカップルを見たくて夜の谷戸に行ってみた。時々獣類の目がライトに赤く光る。クマはいない（はず）と分かっているにもかかわらず怖い。肝心の蛾はオスは飛んでいたがメスは見つけられなかった。フェロモンを頼りに探してみたが、やはり人間のオス（しかも副鼻腔炎気味）には無理。夜徘徊する老人で終わってしまった。 (たのくろまめお)



ウスバフユシャク



ナミスジフユナミシャク

谷戸往来

事務局員のたのくろまめお氏 フォトコンテスト 2点連続受賞
鎌倉市公園協会主催 フォトコンテスト 最優秀賞※
NPOセンター主催 SDGsフォトコンテスト SDGs活動支援センター賞※※

※「谷戸田の秋」（ジョロウグモから見た秋の谷戸田）

※※生態系保全班のニホンアカガエル保護の取組をテーマとした4枚組写真人と生きものの温かいつながりが感じられる作品です。



鎌倉レンジャーズ 12/3(日)

むしろを使って畔を直しました。暖冬といえども冷たい田んぼでしたが、作業をもりもりこなしてくれました。



絵本 谷戸であそぼう 秋

谷戸の青空自主保育を描いたシリーズで、「春」「夏」に次いで刊行。



体験学習

深沢小5年 脱穀 10/17

★足踏み脱穀機も足でふむのが大変でした。昔から(約 300 年ほど前から)色んなきかいがありびっくりしました。風を送ってごみとお米を分別するきかいはまわして風をおくるのがすごく大変でした。でも大変だったからこそ、おいしい米ができると思うのですごく楽しみです。

★ほくは米がついていないねを運ぶ係をいっぱいやりました。ほうきではいたり、ブルーシートをたたんだりするのが楽しかったです。またできるきかいがあったらやりたいです。

★だっこくはぎじゅつがいる作業でした。どうしても最後のだっこくで、米とゴミがいっしょに飛んでいってしまつてとれない米ができてしまうので、タイミングが必要でした。足ぶみだっこく機はリズムがあつておもしろかったです。

★一番最初に「トーミ」をやったのですが、微調整がむずかしかったです。次に、足ぶみ脱穀機をしました。足で板をおすと回転し、イネとモミに分けていて、とてもたのしかったです！



★ドウルルル・・・待ってた時は、ずっとだっこく機の音がしていた。終わったら、あの、軽く米をとばすやつでお米を選べつして、最後は網でお米をざらざらして、最終的に 13 kgもあつまった！次は収かく祭！自分たちで作つたお米は、どんな味がするんだろう？

富士塚小5年 脱穀 10/27

★稲 1 本につきお米が約 25 つぶついているのにたいして、私たちが一口に入れるつぶの数がだいたい 60 つぶでした。一口に約 1.5 本食べていることにおどろき、あらためていままでを見返して、お米をつくることは大変だと感心しました。

籾扱き



★まず足ぶみ脱穀機はドゥランドゥラって感じで回っていて、束を入れたらすぐにお米の部分がとれました。それでとれたお米の部分をふるいにかけて、さらにお米の部分を唐箕に入れてもみとわけます。



★後この2回(脱こくと収かく祭)しかないから、楽しんでしっかり体験しようと思いました。人生で1回ぐらいしかやらないのかもだから色々なことをまなびました。



教育支援教室ひだまり たのくろ豆の収穫・絹さやの種蒔き 11/15

★たのくろ豆の収穫はあまり力いらなかなとか思ってたけど、なぜか根っこが硬くて？全然引っこ抜けなくて結構大変でした。尻もちついて最悪だった笑。そばの収穫では結構簡単に収穫できたし、量もたくさんとれてよかったけど、実際にはそばの麺 3 本分くらいしかないのだと知り、お腹いっぱいそばを食べられるのがとても幸せなことなのだと改めて実感しました。自分が収穫する側になってみると、農家の皆さんの大変さを身をもって体験できるので、こういう機会が増えたらよいなと思いました。

★僕は風邪を引いてしまったので全然手伝いが出来なくて悲しかったです。でも、前、みんなと耕した畑に作物がなっていたり、みんなが楽しそうにしている姿を見て、とても嬉しかったです！！

★しゃべるで土をほる時に、土がやわらかくて土の中にシャベルを入れて持ち上げる時、えだが「ごぎっ」ていってその音がよかった。

1月

- 7日(日) 田 粃殻くん炭、堆肥切り返し
 雑 雑木林の調査・測定 ♣ ☆
 青空自主保育 やんちゃお 保全活動
- 14日(日) 田 粃殻くん炭、堆肥撒き ♣
 雑 竹の伐採
 どんど焼き
- 15日(月) 畑 畑の整備
- 17日(水) 植 土手の草刈り作業
- 21日(日) 田 粃殻くん炭、むしろ編み ☆
 雑 間伐材整理 ♣
 講座「雑木林の管理」☆
 青空自主保育 にこにこ会 保全活動
- 22日(月) 畑 荒起こし ☆
 鎌倉市職員研修
- 23日(火) 鎌倉市職員研修
- 24日(水) 生 カエル産卵場所整備
- 28日(日) 田 粃殻くん炭、苗床耕し ♣
 畑 じゃがいも畑の耕し ♣
 雑 雑木林の除間伐
 青空自主保育 なかよし会 保全活動
 和紙作り「紙すき」

2月

- 4日(日) 田 粃殻くん炭、畔直し ♣
 雑 園内整備 ♣
- 5日(月) 畑 さつまいもの苗床作り ☆
- 7日(水) 植 湿地の草刈り作業
 農 麦わら細工 ♣
- 11日(日) 田 粃殻くん炭、畔直し
 土壌改良
 雑 雑木林の除間伐 ☆
 自 父と子の里山体験
 「絵本、谷戸観察、たき火」▶
- 14日(水) 畑 たのくろ豆畑の耕し
 生 カエルの卵の観察 ♣
- 18日(日) 田 畔直し
 雑 雑木林の除間伐 ♣
 自 里山探検隊「収穫祭」
- 21日(水) 生 カエルの卵の保護作業
- 25日(日) 畑 じゃがいも畑の畝作り
 雑 雑木林の除間伐
 講座「谷戸の野鳥観察」☆
- 28日(水) 和紙作り「紙すき」

3月

- 3日(日) 田 道具の手入れ ☆
 畑 道具の手入れ ☆
 雑 山作業道具の手入れ ☆
- 6日(水) 植 早春の植物の観察 ♣
- 10日(日) 田 畔・水口直し
 雑 雑木林の除間伐 ♣
 自 父と子の里山体験
- 11日(月) 畑 さつまいもの洞出し・伏せ込み ♣
- 13日(水) 畑 じゃがいもの植付け
 生 オタマジャクシの観察 ♣
- 17日(日) 雑 雑木林の除間伐
- 24日(日) 田 ため池整備
 雑 斧で薪割り
- 31日(日) 雑 間伐材の活用 ♣
 和紙作り「紙すき」

☆ 谷戸塾 ♣ 里山一日体験
 各班活動 農家風休憩舎 9:30 集合
 (農芸班、自然遊び班は、10時～)
 ▶ 会員以外の方 参加費 500円/組



田：田んぼ班 畑：畑班 雑：雑木林管理班
 農：農芸班 自：自然遊び班
 生：生態系保全班 植：植物育成班

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内

TEL/FAX 0467-47-1164 木曜を除く 10時～16時

ホームページ: <https://yato-yamasaki.sakura.ne.jp>

Eメールアドレス: ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

- 次号(会報120号)は2024年3月発行予定
- 会費 郵便振替口座番号 00270-6-115647